

第5回 四日市市都市総合交通戦略協議会 議事録

1. 開催日時 平成24年6月4日(月)10:00~12:20

2. 開催場所 四日市市役所 11階職員研修室

3. 出席者及び欠席者の氏名(いずれも敬称略)

(1) 出席委員(22人 うち代理出席2人)

名城大学工学部建設システム工学科教授	松本 幸正
三重交通(株) 四日市営業所長	西田 義明
三岐鉄道(株) 取締役鉄道部長	雨澤 隆生
NPO法人生活バス四日市 理事長	西脇 良孝
近畿日本鉄道(株) 鉄道事業本部企画統括部営業企画部長	倉橋 孝壽
東海旅客鉄道(株)三重支店 管理課長	糸川 浩二
伊勢鉄道(株)常務取締役総務部長	服部 桂吾
四日市市自治会連合会	宮田 勉
四日市商工会議所 総務部長	伊藤 克己
北河原田町女性会 会長	今井 文子
桜ボランティア協会 運営委員	寺尾 甲
四日市南警察署 交通官	稲垣 賀洋
国土交通省三重河川国道事務所 副所長	堀江 勝樹
国土交通省三重運輸支局 首席運輸企画専門官	小林 博之
三重県地域連携部交通政策課 副課長	松井 一明(代理出席)
三重県県土整備部都市政策課 課長	井浦 義典
三重県四日市建設事務所 副所長兼保全室長	小菅 康正
(公社)三重県バス協会 専務理事	星野 雅則
(株)三交タクシー 北部事業本部長	辻 智幸(代理出席)
(社)三重県トラック協会 専務理事	伊藤 信彦
三重交通労働組合 四日市支部長	伊藤 由幸
四日市市都市整備部 理事	舘 英次

(2) 出席オブザーバー(4人のうち、代理出席3人)

国土交通省中部地方整備局建政部都市整備課企画調査第一係長	横井 兼行(代理出席)
国土交通省中部運輸局鉄道部計画課 専門官	小中 太(代理出席)
三重県警 交通企画課補佐	堀井 達也
三重県警 交通規制課 規制係長	福森 正雄(代理出席)

(4) 事務局

市都市整備部道路整備課 課長	石田 茂人
市都市整備部道路管理課 課長	市川 孝夫
市環境部環境保全課 課長	市川 吉則
市都市整備部都市計画課 課長	山本 勝久
総務・交通グループ 野呂 昌則、蟹江 伸次郎、清水 孝一、小口 浩子	
政策グループ 川尻 裕司	
まちづくり支援グループ 駒田 理香、野崎 麻衣子	

4. 配付資料

【事前配布資料】

事項書、委員名簿、協議会規約

資料 - 1 四日市市都市総合交通戦略に基づく平成23年度の取組み実績一覧表

資料 - 2 四日市市都市総合交通戦略に基づく平成23年度の取組み実績位置図

資料 - 3 平成23年度取組み実績及び平成24年度の取組み予定調査票

資料 - 4 近鉄四日市駅サイン計画について

資料 - 5 自主運行バス「神前高角線」のルート変更について

資料 - 6 四日市市都市総合交通戦略協議会 今後のスケジュール(案)

資料 - 7 企業の通勤バスとコミュニティバスの運行検討について

～生活バス四日市第2ルートの検討～

参考資料 - 1 四日市市都市総合交通戦略に基づく平成23年度の取組み実績一覧表

【戦略項目順に表記】

【当日配布資料】

席次表、出席者名簿、委員名簿更新版、戦略書、パンフレット、大臣認定書写し、三重県トラック協会提供資料(物流シンポジウム報告書)

5. 会議傍聴者等3人

6. 山本都市計画課長あいさつ(内容省略)

7. 会議公開及び議事概要公開の報告 了承

8. 委員紹介について

9. 会長の選出について

会長:委員の互選により、館英次委員を選出

座長及び議長:会長の指名により、松本幸正委員を選出

会計監査:委員の互選により、井浦委員、西田委員を選出

10. 議事

(1) 四日市市都市総合交通戦略に基づく施策の取組み状況について

平成23年度の取組み実績報告及び平成24年度の取組み予定について

資料に基づき、市から説明(資料1～3 No1～No15)

(質疑応答)

座長: レンタサイクルについて、いろいろな市町でレンタサイクル、コミュニティサイクルなどの動きがあるが、情報が集約されていないなどわかりにくい点がある。四日市市の場合は、駅の構内などで案内が行われているのか。

事務局: 駅の中にはあまり大きな案内はなく、例えば近鉄四日市駅だと駅の北口を出てふれあいモールのところまで来ると大きな立て看板が設置されている。それを見た人だけがわかるような状況である。JR 四日市駅については、駅の改札を出たところで案内を行っているので、駅を利用する人にはわかりやすく、四日市市に出張で来た人などに使ってもらっている。昨年度には、レンタサイクルについての問い合わせがあるということで、市内のホテルや旅館にパンフレットを配布したところである。それにより利用者が少し

増えたということもあり、もう少し積極的に現地でのPRを行っていきたいと思っている。また、市のホームページでは、都市計画課のホームページの中でしか知らせていなかったが、今後はトップページに近いところで、見えるような位置に載せていくなど、今年度から進めているところである。

座長： 観光客を対象にしたレンタサイクルについての情報提供として、近鉄四日市駅の構内にチラシをおいてもらうなど必要はないのか。

事務局： 必要があると考えている。しかし、レンタサイクルについては収支が厳しく、運営方法についても、レンタサイクル単独では厳しいので、自転車の駐輪場の運営と共同で作業できないか検討をしているところである。運営委託先との関係もあって現在行なっているレンタサイクルの貸し出し場所が変わる可能性もある。きちんと整理し貸し出し場所が固定化した際には、案内表示を積極的に掲示していけるのではと考えている。その時にはチラシなど近鉄さんや三重交通さんと協議させていただき、配布や掲示をしていけたらと考えているので、交通事業者の皆さまには協力をお願いしたい。

A 委員： まったく問題はないので、きちりした体制でシステムが固まれば、いろんな形で対応していく。レンタサイクルは品質管理が問題である。PRしていく以上、2次交通としてしかるべき品質維持がなされており、またシステムが安定した状態になった際には紹介していきたいと考える。

座長： 自転車道の整備とレンタサイクルの連携についてはどのように考えているか。

事務局： 街なかで歩行者の方、自転車の方が安全に走行していただけるように、自転車道の整備を進めさせていただく中で、レンタサイクルについてもあわせて周知、PRをするなど、連携をはかりながら自転車道の整備を進めていけたらと思っている。

B 委員： 中心部の方に用があったのでレンタサイクルを利用しようと思って場所を探した。JRの方はすぐにわかったが、近鉄の方はどこにあるのかわからなかった。せっかくあるのだからもっとわかりやすく、宣伝もしてもらえたら利用者も増えるだろう。JR 四日市駅から近鉄四日市駅間は徒歩で往復すると疲れてしまうので、自転車で回れるといいなと思った。

座長： 市民目線、利用者目線が欠けている場合が多いので、ぜひ努力していただきたい。

座長： エコ通勤について、市民に広げていく際には行政もやっているという姿を見せることは大事なことだが、それについてはどうか。

事務局： 四日市市は平成12年にISO14001を取得して、職員もできるだけ公共交通機関による通勤をしていこうということでエコ通勤に取り組んでいる。最新の数字ではないが、車通勤者は4割弱で、それも、公共交通機関の関係でどうしても車でないと通勤できない職員が残っているという感じである。環境のことを考えると、車から公共交通機関へ移行するというのは大切であるので市として今後も取り組んでいく。

座長： 24年度に向けて何らか検討してもらえということか。ぜひともお願いしたい。

C 委員： エコ通勤を勧めても、実際使える公共交通手段がないというようなこともある。公共交通機関として使える状態を保ちつつ、エコ通勤を展開していかないと、エコ通勤自体は思想的にはいいことだが現実論として実施するには難しい。これはこれでひとつのきっかけだと思うが、ある程度の交通サービスを提供しつつ、エコ通勤というものを目指していこうという全体的な枠組みが今後できていければ、こういう取り組みもやり易いのではという感じで思っている。そのためには、単発では交通事業者さんもエコ通勤のみに合わせたサービスだけを提供していくのは難しいと思うので、全体的な枠組みをどう

- 事務局： いう風に作っていくかということも考えて、あわせて協力していただけたらいいと思う。KIEP'S というのは、エコ通勤とあわせて、各社それぞれが最寄りの駅から霞ヶ浦の工場の方までバスを出していたものを、共同で出すなどいろいろな取り組みをやられている。住民の方も参画できるように取り組まれており、今年度もいろいろと協議する予定と聞いている。
- また市の方でも、本庁舎だと近くに近鉄四日市駅、JR 四日市駅があり、かなり便利であるが、出先機関については場所によっては不便なところもあるので、そこをどうするか内部で考えていきたいと思っている。
- 座長： ぜひそういう情報共有をしていただいて、どこが不便で、エコ通勤をやりたいもののできないのかということを確認にして、新しいサービスを検討するという形になればいいと思う。

引き続き委員（交通事業者）から説明（資料1～3 No16～No25）

（質疑応答）

- 座長： 富田霞ヶ浦公園線の新設について、公園では何かイベントがあるのか。
- D委員： 霞ヶ浦球場では4月の初めにウエスタン・リーグの試合があった。夏の甲子園の予選も予定されている。四日市ドームではフリーマーケットが開催されているようである。
- 事務局： 霞・ゆめくじらに向けて公共交通機関を利用してもらうため、三重交通さんをお願いをした中で実現した。非常にありがたい。公園については、市民からは好評で、春休みやゴールデンウィークには1日千人を超えるような利用者があり、非常ににぎわいを見せているところである。また、ゆめくじらの隣には市営のプールがあり、夏休みには多くの人に利用していただいている中で、行政としては、公園の利用者に富田霞ヶ浦公園線を利用してもらえるようPRしていくことが課題であると考えている。
- 座長： 公園やプールなど、今の日本では親が車で子供を送っていくというのが普通になっているが、子供たちだけで公共交通機関を使って行けるということを浸透させていかないといけないと思っている。そのためには安全・安心というのが重要であり、親としては子供たちだけで行かせて何かあったらどうしよう、ましてや犯罪などが起きると大変心配だと思うので、その周辺を固めたうえで、子供たちだけでも行けるということが実現すればよいと考えている。
- 子供たちが使えば、大人になってからも公共交通機関を使うという習慣がつくので、そうやっていければいいと思う。
- 京都に行ったときのことだが、修学旅行生をたくさん見かけたのだが、公共交通に乗り慣れていないなど思うことが見てわかることがあった。というのはバスなどを使う時に行き先とかがわからなくなった場合に、周囲に聞かずに自分たちだけで判断して行動している場面を見かけたからである。
- そういう場合に周囲に聞くという環境で育っていないからなのではと感じた。私の場合ならわからなくなったらすぐに運転手などに確認する。ぜひ子供のうちから公共交通機関を使える素地を作っていただきたい。
- 座長： ハイキングや登山については、地元の人にはどのように協力してもらっているのか。
- E委員： ハイキングについては近鉄さんについても同様と思うが、周辺のお店にご協力いただいている。
- A委員： ハイキングで一番人気があるのは酒蔵めぐり。酒の試飲があり、車での参加が出来ないので公共交通機関の優位性が出てくる。これについては酒蔵さんとは綿密に計画しながらやっている。またイベント開催で問題となるのはトイレの扱い。ルート上に公共トイレ

レがない場合は周辺のお店などに協力いただく場合もある。また行政側のイベントとタイアップする場合もある。地元の観光協会にご協力いただいて、お茶の提供など、おもてなしなどの準備をしていただくこともある。いろいろきめ細やかに対応している。1回のイベントの開催に下見も含めて10回以上現地に入って打ち合わせたりすることもある。打合せなどを通じて地元の方や行政の方との信頼関係も作れてきているのではないかと考えている。

しかし、昨今のハイキングブームでコースもかなり増えてきているため、人気の面や地元の協力体制の面などから判断して、淘汰されてくる時期にきているのかなと思う。ハイキングコースになることで名古屋圏だけでなく大阪圏にもPRがなされると思うので四日市市にもこれからもご協力いただけたらと思う。

F委員： 三重交通さんからエコ・バスカードやセーフティパスなど良い取組みの紹介があったが、5月28日付けの朝日新聞の社説で生活バス四日市が紹介された。その中で「地方の交通網が傷んでいる。バス路線は5年で1万キロ、鉄道は00年以降670キロ廃止された。地方路線が多い。それぞれ全体の2.5%ほどにあたる。バス事業者の7割、鉄道事業者の8割が赤字経営だ。人口減と高齢化が急速に進んでいる。国の推計では、今後20年で人口は10%減る。65歳以上の割合は今の24%から32%に高まる。これも地方が先行する。人が減って乗客が減り、鉄道やバス便が減る。不便だから家の車に頼る。乗客がますます減り、ついに路線がなくなる。悪循環が止まらない。」とあった。今、高齢者が移動するのに困っている。鉄道やバスについては、朝晩は通勤、通学などで利用があるが、昼間はすいているので、セーフティパスなどをもっと格安にするなど、高齢者が利用しやすいように、もっと考えていただけたらいいんじゃないかと思う。

座長： 現在のセーフティパスなど三重交通が行っているものだが、バスだけだと移動も限られるので鉄道も使えるものが出てくるといい。その時はどこがどう負担するかの問題が出てくるが、それを制度設計していければ良いと思う。

引き続き委員（交通事業者以外）から説明（資料1～3 No26～No35）

（質疑応答）

座長： 幹線道路について整備をすすめていただいているが、災害時の対応としてもいいことだと思う。また幹線整備が進むと車の流れが変わってくると思うが、それに合わせた安全施設の充実などの生活道路の整備についてはどうなっているのか

事務局： 北勢バイパス、国道、県道など広域道路に合わせて広域道路へのアクセスとしての幹線道路の整備をしていくが、それにあわせて生活道路についても、人にやさしいとか歩行者・自転車の視点から、別の事業で取り組みをしているところである。

座長： 道路の機能による役割分担が必要となってくるので考えていってほしい。

近鉄四日市駅サイン計画について（資料4）

自主運行バス「神前高角線」のルート変更について（資料5）

それぞれ事務局から検討状況を報告

（質疑応答）

A委員： サイン計画について、駅構内のサインについては全社で統一したものがあつたため、それ

を変更するには検討が必要となる。また、設置費用については基本的には原因者が負担すべきものと考えているので考慮いただきたい。

事務局： デザインの概ねの方向性を決めていただいたということだと考えている。色やフォントなどについてはまだ課題が残っているので、引き続き協議を進めていきたいと思っている。

座長： それぞれ事情があるかと思うが、利用者というものを忘れずに検討を進めてほしい。また、近鉄四日市駅東駅前広場に案内版が設置されたが、それに対する反応や利用状況はどうか。

事務局： 具体的に人数を測ったわけではないが、利用されている人の声や反応を聞いたところでは、見やすくなったしわかりやすくなったという声をいただいている。しかし、看板が綺麗で、すっきりしているためか、気付かなかったという人も若干みえる。今後、矢羽根型など、もう少し看板が増えれば連続性が出てきて、イメージしやすくなると考えているので、今年度も引き続き早い時期に設置できるものは設置していきたいと考えている。

座長： 設置した後に、どれくらいの人が見て、どこを見ているのかを観測すると次のサイン計画に結びつくので、取り組んでもらえればよいと思う。

座長： バスのルート変更について、関係者の思いと地域全体の思いと温度差があって、まだまだ地域全体としては意識が高くないのかなと感じた。地域が生活交通として必要であると考えていけるように盛り上げていければと思う。また説明にはなかったが、インセンティブが取り入れられる仕組みも事業者と協議して進めてほしいと思う。

今後のスケジュール案について（資料6）

事務局より説明

（質疑応答）

C委員： 全体を通しての意見だが、ハード部分についてはやむをえないところもあると思うが、ソフト部分について、とりわけ公共交通の利用促進に向けた取り組みなどの項目があがっているところについて、個別主体ごとにやられているものをどうやってつなげていくかという全体的なものがいるのではないか。冒頭の座長のあいさつの中で1 + 1を3にしていくということが協議会の意義であるとお話いただいているが、まさにそういった部分についてどんな形をとっていくのかということが、必要じゃないかと思っている。予算的な問題については、今後検討となると思うが、協議会が主体となって、施策を展開することもあるといいと思う。この協議会が単なる国の補助を受ける受け皿ではないとして、主体性を持って連携し、つなげていくということを今後進めていただけたらいいと思っている。各事業者の取組みやイベントを集約したスケジュール表やマップなどを協議会で作って情報発信していくことも、ひとつの方法ではないかと思う。ぜひとも1 + 1が3になるようなものを目指していただけたらと思う。

事務局： ご意見ごもっともだと思う。国土交通省の補助メニューの中にも、協議会としてやるものについて手法が変わるなど減っている部分はあるが、内容も視野に入れながら取り組んでいく必要があると認識している。具体的な内容については、まだ進んでおらず、まずは交通戦略の大臣認定を受けるとことを優先して進めていた。その中で、個々の課題や、バリアフリーも課題としてあるので、使える事業はなるべく使っていくつもりであるので、適宜情報を提供し、場合によっては臨時の分科会等も設置しながら進めさせていただきたいと考える。

座長： 特にソフト施策のところは、今いろいろな事業を実施していただいているが、それを取りまとめ協議会として主体的に進めていくというのは可能かなと思う。そして市民の方々に情報発

信じていくことはやれることだと思うし、それが相互の補完連携につながっていく。ぜひとも検討していただきたい。

(2) その他事項

「企業の通勤バスと連携したコミュニティバスの運行検討について」(資料7)

事務局より説明

(質疑応答)

なし

11. 北勢バイパスのステッカーの紹介と出席者への配布

12. 会長挨拶

本日は内容を欲張りすぎた感も時間が足りなくなって申し訳なかった。

引き続き皆様とともにこの戦略に位置づけられた施策の実施や推進、また進行管理を行なうとともに、C委員からも意見があったように、各会員間の情報共有も図っていきたいと考えているのでご協力をお願いしたい。

本日は、ありがとうございました。

以上